

### 3.2 規約第4条12)「水防災意識社会再構築に関すること。」について

#### ■「水防災意識社会再構築に関すること。」取組状況の報告

- ① 天竜川水防DAY (H30.4.17)
- ② 平成30年度 河川合同巡視 (H30.5.9~22)
- ③ 水防月刊の広報 (H30.5.1~31)
- ④ 第100回天竜塾 開催 (H30.5.21)
- ⑤ (第101回天竜塾) 災害対策車両の操作・実地訓練を実施 (H30.5.30)
- ⑥ 天竜川上流水防連絡会 (H30.8.27)
- ⑦ H30年度 伊那市総合防災訓練に参加 (H30.9.2)
- ⑧ 防災学習の促進について
  - ⑧-1 伊那東中学校での防災教育の実施
  - ⑧-2 天竜川総合学習館(かわらんべ) 防災学習の取組み

# 天竜川水防DAYを開催

平成30年4月17日(火)  
in 松川町中央公民館  
えみりあ

## 50の機関から約70名が参加！

1日かけて情報共有を行う貴重な会議が行われました。

**安全な河川利用会議**  
天竜川水系水質保全連絡協議会  
上流部会



天上管内の天竜川流域で発生した水難事故の事例及び、水難事故防止の啓発活動紹介が行われました。

天竜川上流篠原保全対策官

**大規模土砂災害対策検討会**



大規模土砂災害発生時の国、県、市町村の連携対応についての説明、平成29年度天竜川流域合同土砂災害対応訓練の報告が行われました。

天竜川上流山根係長



**天竜川上流水防連絡会**



天竜川上流椎葉所長

**① 天竜川上流水防連絡会について**

■水防法改定(平成29年6月19日)による水防連絡会の位置付け

近年、全国各地で洪水等の水災害が頻発・激甚化していることに対応し、洪水等からの「逃げ遅れゼロ」(社会経済被害の最小化)を実現するため、多様な関係者の連携体制の構築と既存資源の最大活用を図る「水防法等の一部を改正する法律」(平成29年法律第31号、以下「改正法」といふ)が平成29年6月19日に施行されました。

<大規模氾濫減災協議会制度の創設>

多様な関係者が連携して洪水氾濫による被害を軽減するためのハード・ソフト対策を総合的かつ一体的に推進するための「大規模氾濫減災協議会」制度を創設することとなりました。

**対象河川**

- 大規模氾濫減災協議会は、洪水平野河川又は水位周知河川を対象に組織。(河川令第10条)
- 国管理河川は大規模氾濫減災協議会の組織を義務づけ。(水防法第15条の9第1項)

**協議会の構成員**

市町村、郡道府県、水防管理者、河川管理者、気象台等

改正法においては、多様な主体が連携した洪水氾濫による被害を軽減するためのハード・ソフト対策を総合的かつ一体的に推進するため、大規模氾濫減災協議会制度が創設されました。

「天竜川上流水防連絡会」をこの大規模氾濫減災協議会に位置づけ、水防連絡会の構成員である関係機関と取組を共有し、協力的・総合的に保護、復旧・整備体制を構築していきます。

水防災意識社会再構築ビジョンへの拡充を図る一環として、ハード・ソフト対策を総合的かつ一体的に推進するため、天竜川上流水防連絡会を、**大規模氾濫減災協議会**に位置づけることを提案し、了承を得ました。

**緊急速報メールを活用した洪水情報のプッシュ型配信**

～平成30年5月1日から、全13水系の92市町村にエリア拡大します～

中部地方整備局では、「水防災意識社会再構築ビジョン」のもと、洪水時に住民の主体的な避難を促進するため、平成29年5月から、国が管理する4河川(安倍川、大井川、豊川、矢作川)の沿川市町において緊急速報メールを活用した洪水情報のプッシュ型配信\*\*に取り組みしています。

今回、平成30年5月1日から、洪水情報のプッシュ型配信を国管理河川全13水系の92市町村にエリア拡大します。

※1 「洪水情報」とは、洪水予報最速報(レベル4)及び氾濫発生情報(レベル5)の発表を契機として、住民の主体的な避難を促すための配信です。

※2 「プッシュ型配信」とは、単に配信が開始しなくても緊急速報から情報が配信される仕組みです。

洪水情報のプッシュ型配信イメージ

※今回のメール配信は、国土交通省が発信元となり、携帯電話事業者が提供する「緊急速報メール」のサービスを活用して洪水情報を受信電話ユーザーへ通知するものであり、洪水時に住民の主体的な避難を促進する取組みとして洪水速報が実施するものです。

平成30年5月1日から、洪水情報のプッシュ型配信を開始！  
住民の主体的な避難を促進。

# 平成30年度 河川合同巡視

関係機関、約延べ300人が合同で重要水防箇所、水防倉庫などを点検しました

巡視日	5月9日	5月10日	5月14日	5月15日	5月16日	5月17日	5月21日	5月22日
巡視先	伊那市	宮田村 駒ヶ根市 飯島町	中川村 松川町	豊丘村 高森町	飯田市	辰野町 箕輪町 南箕輪村	喬木村	天龍村
参加関係機関	伊那市役所 伊那建設事務所 各消防署/各消防団 伊那警察署	宮田村役場 駒ヶ根市役所 飯島町役場 各消防署/各消防団 中部電力 駒ヶ根警察署 伊那建設事務所 長野地方気象台	中川村役場 松川町役場 各消防署/各消防団 中部電力 駒ヶ根警察署 飯田建設事務所	豊丘村役場 高森町役場 各消防署/各消防団 飯田建設事務所 飯田警察署	飯田市役所 各消防署/各消防団 各自治体 飯田建設事務所 中部電力	辰野町役場 箕輪町役場 南箕輪村役場 各消防署/各消防団 伊那建設事務所 伊那警察署 長野地方気象台	喬木村役場 喬木村自主防災組織 各消防署/各消防団 飯田建設事務所 飯田警察署	天龍村役場 飯田広域消防本部 和田分署 飯田建設事務所 飯田警察署 阿南警察署 中部電力



飯島町



豊丘村



伊那市



箕輪町

ケーブルテレビ  
の取材

飯田市での河川合同巡視の際に、飯田ケーブルテレビから、飯田河川出張所の刈田出張所長が取材を受けられる様子。

洪水から守ろうみんなの地域



# 水防月間

平成30年5月1日～31日

「あなたと家族の大切な命を守るために、  
私たち自身が日頃から防災意識を高め、社会全体で  
備える必要があります」

天竜川上流水防連絡会では、「水防災意識社会再構築ビジョン」の取組として、5月14日～31日の間において、防災関連の広報を実施しました。

【期間・場所】平成30年5月14日(月)～18日(金):ベルシャイン駒ヶ根店、中川ショッピングセンターチャオ  
5月19日(土)～23日(水):アピタ高森店、アピタ飯田店  
5月26日(土)～31日(木):ベルシャイン伊那店

【内容】パネル展示(平成18年の水害、緊急速報メールの説明、水害への対応、復旧・支援、ダムの役割、気象に関する情報など20枚)

【主催】天竜川上流水防連絡会(※1)

ベルシャイン駒ヶ根店



アピタ高森店



ベルシャイン伊那店



(※1)天竜川上流河川事務所、天竜川ダム統合管理事務所、長野地方気象台、長野県警察(本部、岡谷警察署、伊那警察署、駒ヶ根警察署、飯田警察署、阿南警察署)、長野県(河川課、危機管理課)、伊那市、駒ヶ根市、飯田市、辰野町、箕輪町、南箕輪村、宮田村、飯島町、中川村、松川町、高森町、豊丘村、喬木村、下條村、泰阜村、阿南町、天龍村、飯田広域消防本部、上伊那広域消防本部、中部電力株式会社、(一財)河川情報センター)

# 第100回 天竜塾<sup>※1</sup>を開催

平成30年 5月21日  
天竜川上流河川事務所

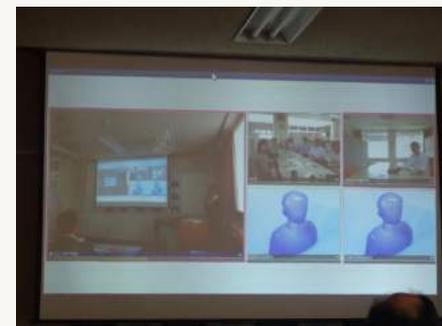
## 【岡谷豪雨災害の教訓について～忘れまじ豪雨災害～】

前岡谷市副市長 中田富雄様(災害時は総務部長)を講師に迎え、平成18年7月19日未明に岡谷市湊地区等において発生した土石流被害の最前線での陣頭指揮を執った経験をお話し頂きました。実際の災害状況はどのようなものであったのか、自治体ではどのような問題が生じたかなど、実体験に基づくお話を伺い、災害に備える重要性を学ぶ機会となりました。

### 【講演の様子】



web会議システムを使用して三峰川総合開発工事事務所・飯田国道事務所にも映像配信しました。



### 第100回天竜塾

岡谷豪雨災害の  
教訓について  
講師 中田富雄様



三峰川総合開発工事事務所・飯田国道事務所からも質疑応答ができました。

※1. 天竜塾とは、天竜川上流河川事務所に在籍する職員を対象に、業務遂行の一助となる知識・経験・情報等を習得することを目的に開催するものです。

# 【第101回天竜塾】

# 出水期前、長野ブロック職員を対象に 災害対策車両の操作・実地訓練を実施

【日 時】平成30年5月30日(水)、9:30~16:00

【参加者】国土交通省中部地方整備局・長野ブロック職員30名

【場 所】AM:天竜川上流河川事務所(駐車場)、PM:天の中川河川公園(中川村)

【訓練車両】照明車(2台)、対策本部車、排水ポンプ車(2台)

a b n長野朝日放送、  
NHK 信州が訓練を取材・放映



照明車10m級



フローアをアウトリガで調整設置



対策本部車展開



照明車20m級



災害時に使用  
特殊車両の操作訓練

a b n長野朝日放送



浮き輪をポンプに接続



ポンプにホースを接続し、天竜川に設置する



排水ポンプ車の排水



騎ヶ根  
災害対策車両の操作訓練

NHK信州

# 天竜川上流水防連絡会

平成30年8月27日(月)  
in 松川町中央公民館  
えみりあ

※諏訪・伊那・飯田圏域大規模氾濫減災協議会合同会議

9月からの台風期に備える為に各関係機関に参加して頂き、災害に関する最近の話題・意見交換など広く会議を行いました。



天竜川上流椎葉所長より挨拶



天竜川上流調査課長より説明



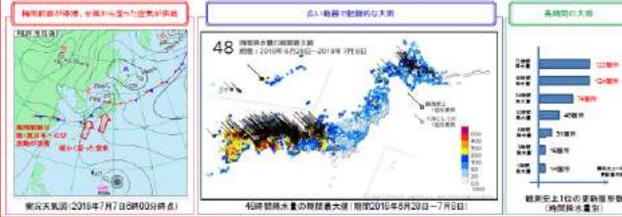
各市町村からの事例紹介

各市町村から多くの事例の紹介を頂き、大変有意義な会議となりました。

7月豪雨による全国の被災状況の紹介や被災に対する洪水ハザードマップの重要性を説明しました。又、各市町村の災害に対する取組状況も広く参考になるよう、紹介して頂きました。

## 平成30年7月豪雨による降雨(概要)

- 6月28日以降、梅雨前線が日本付近に停滞し、また29日には台風第7号が海上に発生・北上して日本付近に激しく非常に湿った空気が供給され続け、台風第7号や梅雨前線の影響によって大雨となりにやすい状況が続いた。
- このため、**西日本を中心に全国的に非常に記録的な大雨**となり、6月28日～7月8日までの総降水量が、西国地方で1,800mm、東海地方で1,200mm、九州北部地方で900mm、近畿地方で800mm、中国地方で500mmを超えるところがあるなど、7月の月降水量が平年値の4倍となる大雨となったところがあった。
- 特に**長時間の降水量について多くの観測地点で観測史上1位を更新し**、24時間降水量は76地点、48時間降水量は124地点、72時間降水量は122地点で観測史上1位を更新した。 ※8月の月降水量は141.300mm



## 洪水ハザードマップの認知度が向上

○ハザードマップで示していた範囲が浸水域とほぼ重なった。昔からのリスクの確認としてハザードマップが有効。

発言者の発表等	報道内容	新聞名・報道名
東京女子大学 広報・広報室 菅野 敬	「ハザードマップなどで自分に降りかかる危険を普段から認識し、警戒や避難行動の前に確認すること大切」	7/14 日本経済新聞
東北大学 風防助教 佐藤 隆	「川が合流する地点など、全国どこでも起こる可能性がある。ハザードマップを徹底し、どのようなリスクが潜んでいるか確認してほしい」	7/15 読売新聞
兵庫県立大学 水村幹次郎 教授	「高槻町で浸水した地域はハザードマップの想定区域とほぼ重なっており、マップの精度は高かった。また、マップが配られても、浸水と関係の深い地域は必ずしも意識しやすくない」	7/18 読売新聞
NHK	土砂災害などの危険性を住民に加えて、迅速な避難につながるため、国土交通省は土砂災害警戒区域などと1コンやスマートフォンで確認できる地図を公開しています。	7/20 NHK

ハザードマップの注目度が高くなっており、記載内容、周知、住民の理解度について新聞や報道等で取り上げられる機会が増えている

# H30年度 伊那市総合防災訓練に参加

天竜川上流河川事務所

9月2日（日）伊那市の西箕輪中学校において、「平成30年度 伊那市総合防災訓練」が開催され、天竜川上流河川事務所より災害対策車両（排水ポンプ車、照明車 各1台）及び平成30年7月豪雨（西日本豪雨）等、近年のTEC-FORCE※1活動状況のパネル展示を行いました。

※1 TEC-FORCE（テック・フォース：緊急災害対策派遣隊）とは、大規模自然災害における被災状況の迅速な把握や被災地の早期復旧に関し、地方公共団体等に対して技術的支援を円滑・迅速に実施するものである。

## 【訓練風景】



各ブースで説明を受ける参加者の方々



伊那市消防団ラッパ隊の演奏を聴く参加者の方々 手前は伊那市災害バイク隊のバイク



園児に災害対策車両の説明を行う 松葉品禮課長



パネル展示状況

# 天竜川上流 防災教育 三峰川を治めた霞堤防(伊那東小学校)

## 【上伊那社会科教育研究会】

地域の人々のくらしに密着した素材である「**三峰川の霞堤**」を題材とした学習指導案を検討



## 【天竜川上流河川事務所】

三峰川の霞堤に関する歴史、図面、写真等の資料、災害映像等を提供

研究会において検討

## 単元名：三峰川を治めた霞堤防

単元の目標：

明治から昭和にかけて三峰川の水害に苦しんできた人々が作り上げた堤防（霞堤防）を取り上げ、作られた経緯やその仕組みについて調べたり、当時の人々がどんな思いで霞堤防を作ったのかを考えたりすることを通して、この地域には先人からの自治や互助の精神が脈々と受け継がれていることに気づくとともに、地域社会に対する誇りと愛情を育てる。



授業の様子



教師が三峰川の堤防の変遷を説明

日時：平成30年7月12日（木）  
会場：伊那市立伊那東小学校 4年杏組

- 本単元は、全14時間を予定。今回は12時間目の授業を研究会の見学会として実施
- 霞堤を「そのまま」にするか「塞いだ方がいい」のか児童がそれぞれの考えを発表

### 【児童の発言】

霞堤防の技術はなくしてはいけない。でも、割地を安全な土地にしたいという思いもわかる・・・  
今の堤防は、その両方の願いを受けているのかもしれないな。



今までの授業でのまとめ

# 天竜川総合学習館 かわらんべ 防災学習の取組み

小学校・中学校の総合学習において、三六災害について座学や現地見学による学習を行いました。座学ではビデオや映像等を活用し、伊那谷は土砂災害の起きやすい土地であることを子供たちへ紹介しました。現地学習では災害痕跡や伝承などを実際に見学し、理解を深めました。既往成果パネルでは過去の災害の実態や災害伝承、防災の取り組みなどを紹介し、子供たちに防災意識をもってもらう機会としました。



三六災害に関連したパネル展示による防災学習の様子

映像や写真で三六災害や災害伝承に関する座学を受講する様子



三六災害の最高水位の紹介や天竜川の狭窄部の現地見学する様子



「災害を忘れぬ為に」を紹介



文庫「濁流の子」を紹介

## 講座実施日と受講団体（参加人数）

- 8月22日 飯田西中学校1学年総合学習（79名）
- 10月16日 旭ヶ丘中学校1学年総合学習（22名）
- 10月23日 緑ヶ丘中学校1年2組総合学習（34名）
- 11月14日 竜丘小学校3年1組（37名）